



祝「みやぎSDGsアンバサダー」認定！ 「わたしのSDGs活動宣言」Vol.33

「SDGs」の目標を達成するためにできることは一体なんだろう。疑問を持ち始めたのは大学1年生の夏でした。本学では、講義内ではもちろんですが、大学のさまざまな活動内でも多くのSDGsの取り組みを行っています。残念なことに多くの学生は座学で終わってしまい、実践に生かす機会はほとんどありません。そこで私はこのみやぎSDGs塾に参加することで実践に移すことにしました。

きっかけづくりに人とのつながりを

尚絅学院大学 森啓輔さん

ことに同世代だけではなく、社会人の方と交流する機会が多くあります。これらを通じて、自分の活動のヒントを見つけて実践的な活動方法を見つけて行くのが最もいいのではないかと考えています。

特にこのみやぎSDGs塾は多世代の方と交流することができ、自分の考え方を交える大きなきっかけになりました。一人一人にできることは小さいかもしれませんが、時には批判を受けることもあると思います。

小さなことですが、マイボットの使用や、今まで捨てていた物の再利用など、私一人で行うことは限られてきますが、自分のできるところから取り組みを行っています。



私は自分から積極的に行動することからSDGsの17の目標達成をしていきます。

13年前、まずはどんな人にとっても必要なのある仕事で専門家として認知され、理解者や協力者を広く得ることができれば、ゆくゆくはアートや地域おこしに携わる人たちの役にも立ち、一見無駄に思われがちな「遊び」を「社会貢献」にすることもかなうだろうと考えて「足管理健康療法」の専門店を開業しました。

全てがつながるこれもSDGs!?

荒町商店街振興組合 駿河真樹子さん

そして現在、健脚で力持ちに育った顧客の一部は地域の行事で活躍し、「体力の無駄使いを楽しむ遊び」に社会的な価値が生まれました。また、歳を取ってから体を悪くするリスクを回避する方法を小中学生に伝えられたことが、医療費の削減にも間接的に貢献できていると考えます。

大きな施策などなくとも、この仕事を正しく続けて、多くの人を利用してもらうことこそがSDGsであると言えるのではないかと、という気づきを、みやぎSDGs Farmから得ることができました。

私は「足と靴の専門家」という立場で地域おこしに参加すること自体がすなわちSDGsであると言います。



みやぎSDGs Farmに参加して、「何の取り組みもしないない私がSDGsを語る資格などあるのだろうか？」という戸惑いが、初めはありました。学びが深まるにつれ、自分がこれまで目指してきたものも、結果的にSDGsにつながるものだと気づきました。

この体験で、共済の重要性を再認識しました。共済は、困難な状況にある人々を支え合う、助け合いの精神に基づいており、特に災害時には困難を乗り越える力になると思うようになりました。

共に乗り越える

宮城県民共済生活協同組合 鈴木良太さん

住民が助け合いながら復興を進める姿を目にして、共済人として、一人一人が安心して暮らせるために、私にできることを改めて考える機会となりました。共済を通じて、地域社会に寄り添い、共に歩んでいくことで、安心して暮らし続ける町づくりに貢献したいと強く思いました。

共済が担う役割を理解し、日常から地域に寄り添うことが重要だと考えています。共済は、助け合いの精神を通じて、社会全体を支える大きな力となります。私は、この助け合いの輪をさらに広げ、地域住民の皆さんが安心して暮らせるように努力を続けていきたいです。

みやぎSDGs Farm



みやぎSDGs Farm

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、より豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGs Farm」の基幹プログラムです。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成するなど、2021年から河北新報社が運営しています。

賛同企業

募集中!!

詳しくはこちらから



【申し込み・問い合わせ】

河北新報社営業局

TEL. 022-211-1318

☑ koukoku@po.kahoku.co.jp

